

ながおか 米百俵フェス ～花火と食と音楽と～ 2025 長岡市・米百俵フェス有限責任事業組合 共同記者発表要旨

日 時：令和7年1月31日（金）午前11時から
会 場：アオーレ長岡東棟4階 大会議室

【発表項目：ながおか米百俵フェス～花火と食と音楽と～2025 事業概要等について】

出席者：長岡市長 磯田 達伸

米百俵フェス有限責任事業組合 総合プロデューサー 北牧 裕幸
(株式会社キューブ 代表取締役社長)

(司会)

2018年から始まりました、ながおか米百俵フェスは、これまで地元実行委員会をはじめ、多くのお客さまからの温かい後押しをいただきながら、継続して開催を続けてきました。

昨年7月に開催しました記者発表では、ながおか米百俵フェス2025につきまして、会場を国営越後丘陵公園に移動し、装いも新たに開催することをご報告させていただきました。

このたび、いよいよ2025年開催のながおか米百俵フェスにつきまして、主催者から新たな発表をさせていただきます。

それでは初めに、ながおか米百俵フェス、地元実行委員会会長の長岡市長・磯田達伸がご挨拶申し上げます。

(市長)

通算で6回目を迎える米百俵フェス、通称米フェスですが、既に昨年7月の記者会見で開催日と会場を変更し、新たにスタートすることをご説明させていただきました。

今年の5月24日・25日の2日間にわたって国営越後丘陵公園で開催いたします。

シン・米フェスとして、装いも新たにスタートする米フェスに、ぜひご注目いただきたいと思っております。

米フェスは、市民の皆さまはもちろん、全国的にも知名度が年々増加してきていると感じており、一昨年は3日間の開催で延べ2万4000人の来場がありました。

米フェスの開催については、株式会社キューブの北牧社長が代表を務める米百俵フェス有限責任事業組合が中心となり、ながおか米百俵フェス実行委員会をはじめとした多くの団体、企業が力を結集して開催するものです。

今回、開催時期を秋から春に変更することで、台風などの天候の影響が避けられ、さまざまな準備や、ご来場者の皆さまにもご不便をおかけすることがない開催になると思っております。

国営越後丘陵公園は、大きな駐車場もあり、高速道路を利用してお越しになる方々にとっては、非常に交通の便が良くなると思っております。

また、全国的にも人気の高いイベントである「香りのばらまつり」のオープン日と重なっており、多くの皆さまからご来場いただけるのではないかと期待しております。

ご来場いただいた皆さまには従来通り、長岡の美味しいお米、地元食材を使ったフェス飯、

そして長岡花火の打ち上げなど、長岡にしかない魅力を、音楽と共に味わっていただければと思っています。

シン・米フェスとして、長岡でしか味わえない音楽と食、花火といった楽しみを多くの皆さまに満喫していただきたいと思っています。

長岡花火に継ぐ一大イベントを作っていきたいという目標のもと、北牧さんをはじめ、商工会議所、青年会議所、ブースを担う各団体、飲食業の皆さま、交通関係の事業者の皆さま、報道関係の皆さまが、一致団結して開催するものになります。ぜひ長岡市が一丸となって盛り上げるこの米フェスを、大いにPRしていただければと思っています。

この取り組みにより長岡ファンがさらに増え、長岡地域全体が魅力あふれる観光地へと成長していくきっかけになればと考えています。

この後、北牧さんから出演アーティスト、チケット、フェスの内容などについて、具体的にご報告いただけたと思っています。私も具体的な内容を承知しておりませんので、非常に期待しています。

新たなスタートを切るシン・米フェスの成功に向けて、精一杯長岡市として支援していきたいと考えておりますので、皆さまどうぞよろしく願いいたします。

(司会)

「ながおか米百俵フェス～花火と食と音楽と～2025」主催者であります、米百俵フェス有限責任事業組合総合プロデューサー、北牧裕之からご挨拶申し上げます。

(北牧総合プロデューサー)

昨年7月に、場所、日程を変更し、シン・米フェスとしてリニューアルすることを発表しましたが、本日その概要について発表できる日が来たことを大変喜ばしくっております。

まず初めに米フェスのプロモーションビデオをご覧ください。

(プロモーションビデオ視聴)

(北牧総合プロデューサー)

昨年7月の記者発表と一部重複しますが、日程と会場の変更についてお話をさせていただきます。

日程についてですが、近年は天候が不安定で、秋に台風が通過したり長雨が続きたりすることが多くなりました。以前は、10月まで雨が続くことはあまり想像できませんでしたが、米フェスを開催して以来、そのような事態が続いています

お客さまに快適な環境で観覧を楽しんでいただくため、長岡の過去の天候記録を調査しました。その結果、5月連休明けから梅雨入りまでの間は天候が安定していることがわかり、日程をこの期間に変更することにいたしました。

会場についてですが、これまでは東山ファミリーランドで開催を続けてまいりました。

ウイルス禍が落ち着き、人出が戻ってきたことで、一昨年の開催では会場が手狭になってきました。また、スキー場のため、急な斜面が続き、お客さまの安全面への懸念もありました。より広い会場で安全にイベントを開催するため、国営越後丘陵公園への変更を決定いたしました。

国営越後丘陵公園は、大型野外フェスの実績があり、長岡インターからのアクセスも非常に良く、駐車場も完備しています。

このように日程と会場は変更しましたが、米フェスのコンセプトは変えずに続けていきたいと思っています。

米フェスのコンセプトは、ファミリーで楽しめる、家族2世代、3世代で楽しめるフェスで

す。

音楽ファン、若者だけではなく、幅広い年代の人たちに楽しんでもいただけるフェスを目指そうと始めました。

そのため、ステージだけではなく、キッズパーク、キャンプ、フード、そして長岡花火、これらのアクティビティやコンセプトはそのままで実施いたします。

ただ、今回リニューアルで変更した部分もあります。

少し余談ですが、昨年11月に母校である新潟県立長岡高校で、創立記念講演を行いました。米フェスの紹介もさせていただき、その後にアンケートで「米フェスを知っていましたか」「来たことはありますか」「行きたいですか」という質問を投げかけました。みなさん名前は知っているが、来たことがある人は数%しかいませんでした。

しかし、講演を聞いて、ほとんどの在校生が行ってみたいと答えてくれました。

これは反省点ですが、やはり若い世代に対しての認知がなかなか進んでいなかった、あるいはそこへ向けての施策が足りてなかったと痛感いたしました。

今回の講演で多くの在校生から行ってみたいという返事をいただき、非常に熱いメッセージをいただきました。そこで今回は、できるだけ多くの若い世代の人たちに来ていただけるような試みを取らせていただこうと思っております。

第1弾のアーティストと、その日割りを本日発表させていただいております。これで約半数強のアーティストの発表となり、1カ月後を目処に、第2弾アーティストを発表させていただこうと思っております。

第1弾では、ダンス&ボーカルグループや、配信で大変人気の方など、若い世代に非常に人気の方を多く発表させていただきました。

さらに本日はチケット価格を発表しました。

世の中はインフレで、さまざまな資材や人件費が高騰しております。都内などではエンタメ系のチケット価格が、2割から3割程度上がり、場合によっては、5割程度上がっているような状況です。米フェスについては、より多くの方たちにお越しいただきたいということで、基本的にチケット価格は据え置かせていただいております。

また、若い方たちに来ていただきたいというコンセプトのもと、中高生の価格は値下げいたしました。大人同伴の小学生以下については、引き続き入場無料です。

これ以外のキャンプチケットや交通チケットなどについては、資料に記載させていただいております。

チケットについては、本日から順次発売を開始しますが、シャトルバスチケットのみ後日発売です。窓口販売については、各販売店ごとに順次発売が開始になります。今後は長岡市のふるさと納税の返礼品にも追加予定です。

今回は「香りのバラまつり」と同時開催です。音楽とバラを楽しめる一挙両得なフェスになるのではと思っております。

米フェスブースターズについてですが、これは若者たちに対しての施策の一環です。長岡高校での講演後のアンケートで、ぜひボランティアをやりたい、あるいはスタッフとして参加したいという意見が多数ありました。長岡高校以外の学校などからも同じような声を多数いただきましたので、今回初めて学生ボランティアを組織化する試みを行います

学生のみなさんに、できるだけ自主的に運営していただき、米フェスの宣伝活動や地元の盛り上げ、当日のさまざまなお手伝いをしていただこうと思っております。ながおか・若者・しごと機構と共に運営していきます。

長岡まつり大花火大会と並ぶ、長岡市の2大イベントとして米フェスを定着させたいと思っています。長岡市民、そして新潟県民の祭りとして、皆さまの手によって、どんどん発展さ

せ、盛り上げていただくように全力を尽くしてまいりたいと思います。

(司会)

それでは質疑応答の時間に入ります。

(記者)

参加アーティストは、全体でどれぐらいになりそうなのか、また、規模について、これまでの違いを教えてください。

(北牧総合プロデューサー)

オープニングアクトなどを入れて18から20組程度の出演を予定しています。

規模については、観客の数が増えるという意味です。観客が増えれば、フードコートや、協賛ブースなど、さまざまなものの規模拡大が必要と考えております。

(記者)

地元小学生の合唱は今回もあるのか、また、チケットの発売方法について、もう少し詳しく教えてください。

(北牧総合プロデューサー)

一昨年は、ステージで歌っていただきましたが、それ以前は歌を録音し、花火と共に流していました。

開催時期の変更により、今回はなしになります。しかし、テーマソングという位置づけは変わらないので、復活の可能性を探っていきたいと思っております。

チケット発売についてですが、一番早く始まるものがオフィシャルのLINE先行です。これは米フェスLINEに登録をしている方々への発売で、この後12時から始まります。市民割引、一般の発売ともに始まります。

その後、楽天チケット先行が2月17日、セブンイレブン先行が3月12日、各プレイガイドの先行は、このように順次始まります。一般発売については、もう少し後の予定です。

窓口販売については、2月1日10時からC o C o L o長岡サービスカウンター、2月3日10時から日本旅行長岡支店で販売となっております。

駐車券については、本日12時から、ぴあ、イープラス、ローソンでお買い求めいただけます。シャトルバス券については、未定です。キャンプチケットについては、ぴあのみで本日12時から抽選受付を開始します。

(記者)

チケットについて、当日券の販売はないという認識でよいですか。

(北牧総合プロデューサー)

当日券も発売いたします。

(記者)

当日券は会場の受付などで購入可能ですか。

(北牧総合プロデューサー)

はい。

(記者)

会場を移動したことで、どういった制限があったか、また、逆に今年から可能となったことがあれば教えてください。

(北牧総合プロデューサー)

通常は開門、閉門時間ありましたが、宿泊などを可能にさせていただきました。

会場が広くなったことで、全てのアクティビティなどを広く展開ができるようになりました。

例えばキッズパークなど、常設の遊具がありますので、そういったものも利用し、さまざま

な展開が可能になると期待をしております。

(記者)

観客席の数が増えるといったこともあるのでしょうか。

(北牧総合プロデューサー)

観客エリアも今までよりも広く取れると考えております。

(記者)

米フェス学生サポーターズクラブについて、何人ぐらいを採用する予定か、具体的にどういった内容をお手伝いしてもらう予定か教えてください。

(北牧総合プロデューサー)

ながおか・若者・しごと機構の皆さんにお願いし、市内の高校以上の各学校に、チラシを約8000枚配布予定です。

2月24日にミライエで説明会を開こうと思っております。

活動の内容ですが、AとBの二つに分けております。Aチームが事前PR活動のお手いで、SNSを中心としたさまざまなプロモーションを若い方たちの視点で考えて提案してもらいたいと思っています。地元の盛り上げも必要ですので、ポスター貼りや、のぼり立てなど、アナログ的な活動もあると思います。空中戦と地上戦の両方で、若い人たちの視点でPR活動をしていただこうと考えております。

Bチームは、フェスボランティアという形で、各部署のいろんなお手伝いをさせていただこうと思っております。

(記者)

やりたいと手を挙げた学生さんは、ほとんど受け入れてボランティアに当たれるというような理解でよろしいですか。

(北牧総合プロデューサー)

もちろん人数にもよりますが、できるだけ多くの方に参加していただければと思っております。説明会についても100人先着となっておりますが、例えば配信など何らかの形で説明会が見れるようにしたいと考えております。

(記者)

観客の見込みについて、昨年の会見時は1日あたり2万人の来場を見込むというお話でしたが、その見込みは変わっていないのでしょうか、また、一昨年と比べると1日あたりの来場者数は倍増ぐらいの見込みですが、どういった期待が込められているのでしょうか。

(北牧総合プロデューサー)

各日2万人を目標に動員を凶ろうと思っております。動員増については、コロナ禍明けもありますが、長岡市営スキー場よりも国営越後丘陵公園の方が遥かに認知度が高く、市民、県民の皆さまの足を運ぶ心理的ハードルが非常に低くなると感じております。

駐車場についても、以前は2キロ近く山道を歩いていましたが、今回は駐車場から10分から15分程度で会場に着きます。

さらに、若い人たちに多く来ていただく施策をいろいろ考えておりますので、アーティストの選定なども含めて、各日2万人の目標となっております。

(記者)

今回の米百俵フェスの期待感を教えてください。

(市長)

アーティストの魅力や食の魅力も十分にあったが、天候不順で大変残念な年もありました。開催時期を変えることによって、そういった心配が少なくなることは、米フェスファンの方々にとっても非常に歓迎すべきことかと思っております。

国営越後丘陵公園は、親子連れでシーズンに1、2回行くという方も多く、そういった意味ではとても行きやすいと思います。

2年後には、仮称「大積スマートインター」がオープンします。アクセス性も極めて高くなると思っていますので、市民だけでなく広域の方のご来場も今後期待できると思っております。長岡花火に並ぶ、長岡が誇るイベントに成長していくこと本当に期待しております。

(記者)

ボランティアについて、現場スタッフは、具体的に会場設営や当日の誘導、雑踏警備といったイメージでしょうか。

また、子どもたちに対してメッセージをお願いします。

(北牧総合プロデューサー)

ボランティアの活動についてですが、その内容で非常に近いと思っております。

昨年なども一部の専門学校生にボランティアとして参加していただきました。いろいろなセクションに入って、いろいろなサポートをしていただきました。具体的には場内の誘導、受付関係、物販のお手伝いなど、本当に多岐に渡ってお手伝いをしていただくことになると思っております。

若者へのメッセージとしては、とにかく経験してほしいと思います。フェスなどの生の音楽に触れないで、SNSやネットでわかったように思っているかもしれないですが、やはり生の感動は、全く違うものだとことをぜひ実感をしてもらいたいと思います。まずは体験してほしい、触れてほしい。そこから何か新しい夢を見つけてくれたらありがたいと思っております。

(市長)

今、さまざまなメディアが発達する中で、音楽もスマホで聞くことができますが、私は音楽を聞くときに、足の裏で聞くとか、振動を感じて感動するような音楽の聞き方をずっとしてきました。スマホでも結構聞けるとは思いますが、本当の感動とは少し違う部分もあり、音楽を体で感じて、あるいは肌で、皮膚で感じるような、そういった体験を若い人たちに知ってもらいたいと思っております。

ライブの感動をこの長岡の地で感じてもらいたい、この長岡の自然の中で音楽を体感することによって、長岡愛や、思い出をしっかりと作り、音楽から元気をもらう経験してもらいたいと強く思います。

勉強もスポーツも大事ですが、音楽も本当に一生物だと思います。音楽と共に人生を歩むといったそのスタートに、このフェスがなれば本当に意味があると思っております。

長岡花火を見て人生に対するいろいろな動機付けや、そこで元気をもらって頑張るという方々が多くいるように、このフェスに来ることで音楽をしっかりと楽しみながら自分も頑張っていこうという体験を長岡の若者、あるいは外からくる若い人たちに感じてもらえれば、それこそ米百俵の未来への投資、あるいは人材育成に繋がっていくのではと思います。

(司会)

以上をもちまして、記者発表を終了します。